



日本海区水産試験研究
 発行所
 新潟市万代島
 日本海区水産研究所
 印刷所
 第一印刷所
 株式会社

日本海のブリは三月より七月、一月から翌年の一月と年間二回の漁期がみられ、それらを普通季節別に彼岸ブリ・夏ブリ・冬ブリという名で呼んでいる。そのうち彼岸ブリは専ら島根・山口方面のいわゆる西部日本海における呼名で、京都以北ではこれが夏ブリという名称になる。

好漁場は冬ブリと夏ブリでは湾内と外海というふう異なる処もあるが、総体的に山口から島根西部の沿岸、隠岐の島・若狭湾・能登半島周辺から富山湾・佐渡ヶ島・男鹿半島周辺、青森南西部沿岸の七カ所があげられる。漁獲時の水温は一四〜一七度、年間漁獲高は大體四〇〇万メ前後で、年による著しい変化はあまりない。漁法は定置網、一本釣、曳縄釣、刺網、延縄などで、定置網が水揚高の九割以上を占めている。

産卵は大体富山湾あたりまで行なわれているが、主産卵場は島根以西の海域で、一部礁つきのものもあるが、大半は北上、南下の洄游を行っている様子である。

以上が日本海のブリについての概略であるが、すこしほりさげて究明する段になると他魚種以上に不明な点が多い。すなわちごく身近な例であるが、冬ブリにおいては

日本海

日本海のブリ

永田俊一

しばしば一統の網で一万メとか、多い時は五〇万メ近くのブリが一度に漁獲され、湾内にたてられた網全体からすると一〇万メ以上のブリがしかも一時に入網する現象がしばしばみられる。そうすると、それらの大群は入網直前に、はたして何処にいるのだろうかという事になると、諸説紛々として臆測を重ねるのみである。もつとも最近、両津湾・富山湾・若狭湾などではふだんは

湾内の比較的沖合に来遊していて、シケの時、湾奥に突入してくるというのと、湾外の礁についていて、それが海況の変化によつて湾内に入り込んでくるのだという二説に集約されてきた。

しかし、これも棲息していると思われる水域で二メ以上のブリが漁獲されていない事と、ブリの濃群が魚探にどうしてもキャッチされていない事などから、今の処推測の域を脱しない。もつとも昨年一月下旬隠岐の島・三度岬沖の礁で数十万メに及ぶ

ブリ魚群と思われる魚探反応をとらえたという報告はあつた。

以上の他に冬ブリと夏ブリでは魚体組成が極度に異なること、山口沿岸の彼岸ブリの魚体の変化など疑問に思われる点は多々ある。ましてや洄游の問題、海況との関係、卓越群や沖合群、はては生態、資源量などになると皆目見当がつかないといつても過言ではない。

最近、対島暖流調査や海況漁況予報調査でブリの標識放流や定置網調査が実施されるようになり、一部では漁況速報も行なわれてブリに対する関心も高まつてきたが、水揚高ランクは七位、それに高級魚ともくされ、加うるに定置網という消極的漁法にたよつては、系統だつた調査研究の確立も現実面では、いろいろ制約をうけざるをえない。

しかし、幸に定置網に従事している人々には、他の漁業者に比べ研究に非常に熱心な人が多く、漁場との調査の協力態勢がきわめてくみ易い事は、他の魚種にはちよつと真似することの出来ない大きな強みである。したがつて、今後はこの様な利点を大いに活用する事によつて、足らざるところを補なつてゆけばむしろ他魚種以上の成果も期待出来、現在盲点となつているものも現状も必ずや解決の糸口がつかめるものと確信する。

主なる項目 第 93 号

- 日本海 永田俊一
- 富山湾冬ブリの漁況と海況 田畑喜良
- 富山湾冬ブリの豊凶 森田南
- 若狭湾夏ブリ 洄游生態 永田俊一
- 佐渡の夏ブリ
- 西部日本海漁況海況予報協議会

昭和 33 年の連絡 ニュース

本年一月より毎月、号を追つて各魚種または各漁業を定め特集形式で編集しています。

- 83 (一月)号 将来の水産試験研究に対する夢
- 84 (二月)号 底魚資源について
- 85 (三月)号 漁況予報 (大羽鱈・まぐろ)
- 86 (四月)号 漁況予報会議 (サンマ)
- 87 (五月)号 サバについて
- 88 (六月)号 スルメイカについて
- 89 (七月)号 今春の大羽イワシ漁況予報の回顧
- 90 (八月)号 浅海増殖について
- 91 (九月)号 加工利用について
- 92 (十月)号 日本水産学会秋期大会より
- 93 (十一月)号 ブリについて
- 94 (十二月)号 日本海西南海区の底曳漁業

(日本海区水産研究所海況漁況科長)

冬ブリの豊凶

森田良雄

(一) 一月の漁獲量
一四六・二千ト
ン、普通漁であつ
た昭和二十八年(五
三六・二千ト)

富山湾

富山湾におけるブリ(フクラギを除く)の漁期は概ね一月上旬に始まり、一二月の盛漁期を経て一月中旬に終漁するのが通例のようである。以下昭和二十五年から昭和三十三年(二十九年は一部資料を欠いているので除外)までの一月、一二月における漁期の動きと漁況について述べる。

1 初漁の出現と漁況

一応基準を求める必要から、三七五疋以上のまとまつたものが漁獲された日を初漁として、この稿を進めることとする。

三七五疋以上の出現は最近七カ年のうち、一月一日から六日までの間に現われたのが四例(昭和二十六年……好漁、昭和二十七年……不漁、昭和三十一年……不漁、昭和三十三年……普通漁)、一月二五日、一六日に現われたのが三例(昭和二十五年……豊漁、昭和二十八年……普通漁、昭和三十一年……不漁)であるが、この初漁の出現の遅速の差異と爾後の漁況の豊不漁とは、特に関連は認められない。ただ、一二月の初漁期において、まとまつた量の漁獲の頻度の多いときは、盛漁期に好漁を予想してよいのではないかと考える。このことは豊漁であつた昭和二十五年

及び昭和三十一年(二七三・七千ト)に該当するが、例外として好漁であつた昭和二十六年一月は僅かに一五千トに過ぎなかつた。

2 盛漁期の出現と漁況

盛漁期の出現は、昭和二十八年を除いてはいずれも一二月に現われ、その出現の時期は初漁の出現と略々同様の傾向が見られ、一二月の上旬に出現したのが四例(昭和二十五年、昭和二十七年、昭和三十一年、昭和三十三年)、中旬に出現したのが二例(昭和二十六年、昭和三十一年)であるが、昭和二十八年は他の年より一旬以上早く一月下旬に出現している。この盛漁期は、漁期間中に二乃至三回現われ、盛漁期の長短がその年の豊不漁に深い関連を持つことは他の漁業と変りはない。最近七カ年における盛漁期の出現回数と、その期間の長短は次の通りである。

昭和二十五年は二月(月間二、一五二・五千ト) 上旬に現われ、三回出現し、通算二四日間、昭和二十六年は二月(月間一、一五一・三千ト) 中旬より二回出現し、通算十七日間、昭和二十八年は一月(月間五三六・三千ト) 下旬に一回、二月(月間三九七・五疋) に二回、計

三回出現し、通算十九日間、昭和三十一年は二月(月間五一三・五千ト) 中旬と下旬で二回出現し、通算一五日間で、それぞれ相当長期に及んでいるが不漁であつた。その他の年は回数は二回ずつ出現しているが、通算日数は五乃至八日間程度で、極めて短いものであつた。

さて、本年の漁況であるが、ブリの先駆とも云うべきフクラギは昨秋以上の不漁であつて、一七統の大型定置網はブリの洄游に大きな期待をかけているのである。しかし、本年は例年に較べ全般的に漁期が遅れており、一月二〇日現在まで三七五疋以上のブリの初漁は見えていない。

一月上旬における海洋観測の結果、水温分布は概ね順調で、既に七五米層は一七度(○)台、一〇〇米層は一四度(○)台で適水温となり、理想に近い水温配置になっているので、普通漁を予測しているのであるが、気象条件と極めて密接な関連を持つブリ漁況を予察することは頗る困難なことである。幸い今年には、大陸高気圧が優勢の傾向に窺れるので、今後の気象条件の好転と相俟つて佐渡北面冷水域が発達して南方に張り出し、V字型配置を形成することを期待するものである。

(富山県水産試験場)

魚=探

ヨーロッパでは、高い処から地上を俯瞰する景観を愛するようになったのは、文献上ではルネサンス以降のことである。

箱庭式の景観、そんなものはもう過去のものとなつて、今では雄大壮重な景観にあこがれる風がわが国でも強い時代となつている。

しかしながら、高山の頂上から四方の景観は別として、平地からする景観は、この国土のなりたちのせい、どこもほぼ大同小異で、だれしも見なれている。

ところが海上から陸地をあれこれと眺見する景観は、余り知られていないが、この景観こそは、日本アルプスや、富士山頂から下界をふかんするのとの趣の異つた雄大さがある。なかでも太平洋上から眺見する富士山とか、薩摩の開聞岳の景観はこの世に冠絶するものと云つてよからうが、わが日本海では洋上から立山連峯とか鳥海山を眺見する景観を第一としたい。

ある日本海の一月でも、寒風と云つて、微風も立たない静かな一時がある。そんな時、藍色の対馬暖流と黒部川の半濁水とのなす雄大で鮮かなコントラストや、白銀色にかがやく立山連峯が山々の背もくつきりと淡青色の大空に向つて、そそり立つているのは、日本海の圧巻である。

海からの日本の景観をつぎつぎと見て廻つたら、日本の国土について、いままほく遠がもつているものとはもつと別のものが出来あがることであろう。

佐 渡

佐渡ヶ島のブリといえば、一般に両津湾の冬ブリを指すが、五月中旬から七月中旬頃まで漁獲される外海岸の夏ブリも、忘れてはならぬ存在である。

一般に日本海の夏ブリは北上すると言われている。したがって、こ

念から考えると、佐渡にくるブリは若狭湾・能登半島に來遊してきたブリ群が、洄遊してくるものとみてさしつかえない事になる。すると若狭湾・能登半島方面の定置網で漁獲されるブリと、佐渡の定置網に入網するブリの魚体には密接な繋がりが必要ならぬ。

しかし、調べてみるとそうではない。すなわち、前者では六〇〇〜八〇〇匁のも

佐 渡 の 夏 ブ リ

永 田 俊 一

佐渡ヶ島のブリといえ、一般に両津湾の冬ブリを指すが、五月中旬から七月中旬頃まで漁獲される外海岸の夏ブリも、忘れてはならぬ存在である。

一般に日本海の夏ブリは北上すると言われている。したがって、こ

念から考えると、佐渡にくるブリは若狭湾・能登半島に來遊してきたブリ群が、洄遊してくるものとみてさしつかえない事になる。すると若狭湾・能登半島方面の定置網で漁獲されるブリと、佐渡の定置網に入網するブリの魚体には密接な繋がりが必要ならぬ。

しかし、調べてみるとそうではない。すなわち、前者では六〇〇〜八〇〇匁のも

十一月二十日・二十一日の両日にわたって、山口県外海水産試験場で、西部日本海漁況海況予報協議会が開催された。出席者は福岡水試技師、山口水試吉津場長、高重伊東、原技師他、島根水試児島、山崎技師、鳥取水試千田技師、日水研下村開発部長、宮田技官で、終始活潑な討論研究報告が発表され、本年の西日本海の大羽鱈漁況予報が取纏められた。

なお、この会議で、全国的な研究者の協議会の開催が要望された。次回は鳥取水試主催。

（日水研）

西部日本海漁況 海況予報協議会

京都府定置網研究会 開催される

京都府下の冬ブリを対象とした定置網研究会は十一月十七日、各漁場の関係者、試験場員約二〇名が参加して京都府水産試験場で開催された。

まず京都水試加藤技師より過去の漁獲高、海況、魚体組成、気象状況からみた本年の冬ブリについての考察が発表され、つづいて永田技官よりブリ漁況に関する講演が行なわれた。その後、業者との間に種々討論意見の交換が行なわれ盛会裡に終了した。

（日水研）

第十四回 日本海海洋調査技術連絡会

「連絡ニュース」も本号で第九三号を数えています。私達編集者一同は、毎号どのようにすれば、皆様の記録に、研究を進めるヒントに、また文献として役立つか苦心しています。

今後一層読み易い様にしたいと考えていますので、御多忙ながら同封の用紙に記入して一月二〇日までに、新潟市万代島 日本海区水産研究所宛 御送付方お願いします。

◆編集後記◆

日本海のブリは、正月料理に欠くことが出来ない材料の一つです。今年にはニシンの不漁で数の子も昨年と同じく高値で、庶民には一入ブリの豊漁が待たれています。

さて今回は、今年の冬ブリの予想に関連して、富山湾の冬ブリ、佐渡・若狭湾の夏ブリについて森田・南沢・田畑の三氏に玉稿をお願いしました。処御多忙中早速御執筆下さいまして厚く御礼申し上げます。(K・M)

「アンケート」

「連絡ニュース」も本号で第九三号を数えています。私達編集者一同は、毎号どのようにすれば、皆様の記録に、研究を進めるヒントに、また文献として役立つか苦心しています。

今後一層読み易い様にしたいと考えていますので、御多忙ながら同封の用紙に記入して一月二〇日までに、新潟市万代島 日本海区水産研究所宛 御送付方お願いします。

◆編集後記◆

日本海のブリは、正月料理に欠くことが出来ない材料の一つです。今年にはニシンの不漁で数の子も昨年と同じく高値で、庶民には一入ブリの豊漁が待たれています。

さて今回は、今年の冬ブリの予想に関連して、富山湾の冬ブリ、佐渡・若狭湾の夏ブリについて森田・南沢・田畑の三氏に玉稿をお願いしました。処御多忙中早速御執筆下さいまして厚く御礼申し上げます。(K・M)